

2015. 3. 15

大型研究フォローアップ WS 2014. 12 発表者の皆様

日本学術会議 地球惑星科学委員会 企画分科会

2014年12月27日開催の大型研究フォローアップWSでお約束したように、発表いただいた大型研究提案に対する企画分科会からのコメントを、以下の表形式でお返しします。また、企画分科会委員に加えて、ヒアリング当日の参加者に求めた模擬評価も参考資料として添付します。現時点での評点に一喜一憂される必要はありませんが、研究分野が異なるピア어의意見は、参考になる点が多いはずです。地球惑星科学委員会として、今後も大型研究や中型研究の推進について努力を続けますので、提案者各位には本コメントを踏まえて、研究提案の一層のブラッシュアップを期待しています。

## 日本学術会議 地球惑星科学分野大型研究フォローアップWS 2014. 12 ヒアリング・コメント

主分野	課題名	発表者	2013. 04 ヒアリング時のコメント	2014. 12. 27 ヒアリング時のコメント
固体地球	海底地震・地殻変動観測網の整備と海陸地震火山観測に基づく地震発生及び火山噴火予測研究の推進	平田 直	科学的にも社会的にも重要な研究である。ただし、行政機関による観測との関係、役割分担を明確化し、より効率的に観測が実施される方策を模索すべき課題である。なおヒアリングでは海域の観測の説明に絞った説明のみがなされたが、陸上の観測を含めた全体像を的確に示す必要がある。	総合評価は上位にあり、研究の重要性（学術的、社会的）は理解された。その反面、行政施策と進めるべき部分と純学術として進めるべき部分が截然とは分離しがたいため、大型研究としては他の課題と提案の意図がやや異なっていると捉えられている。その結果、レーダーチャートで「大型としての適否」もやや低めの評価になっており、「大型学術研究としては何をやるか」をもっと明確にする必要があるだろう。 既存の計測技術の広域展開を基本にしているが、新たな観測技術（例えば、津波監視用海上ブイなど）の導入や、さらに今後求められる技術開発要素を含めて、固体地球圏の総合的な変動監視システムの将来像を示し、それによって達成される科学課題を提案できないか？

## 参考資料

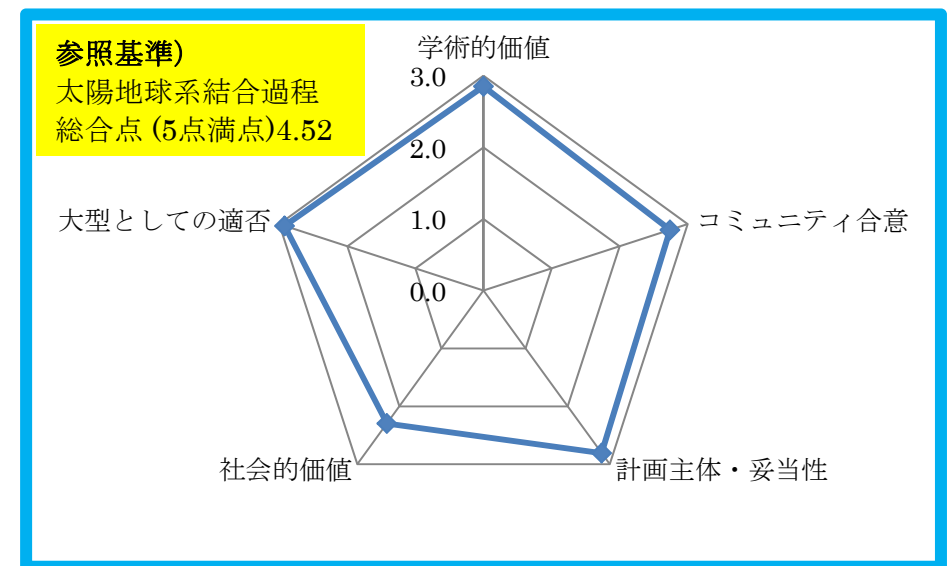
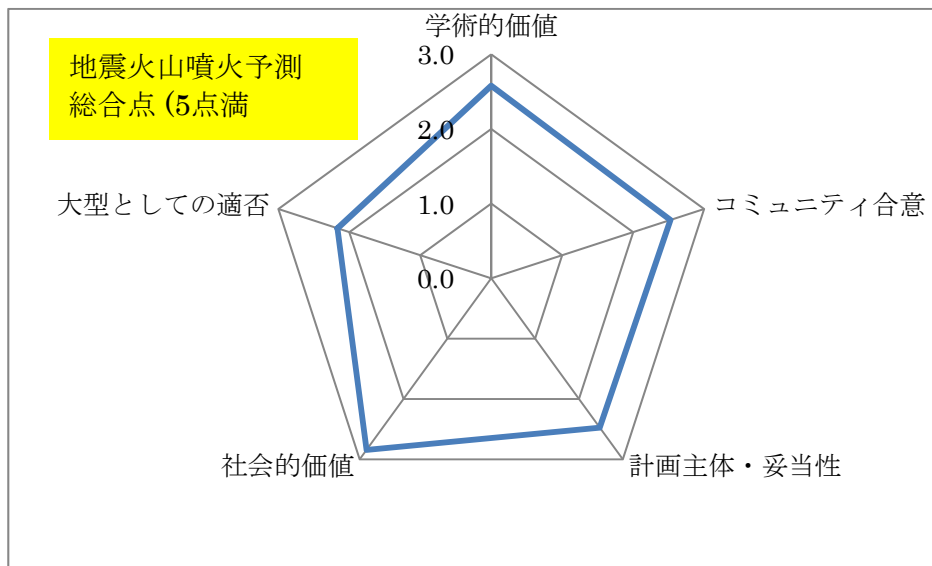
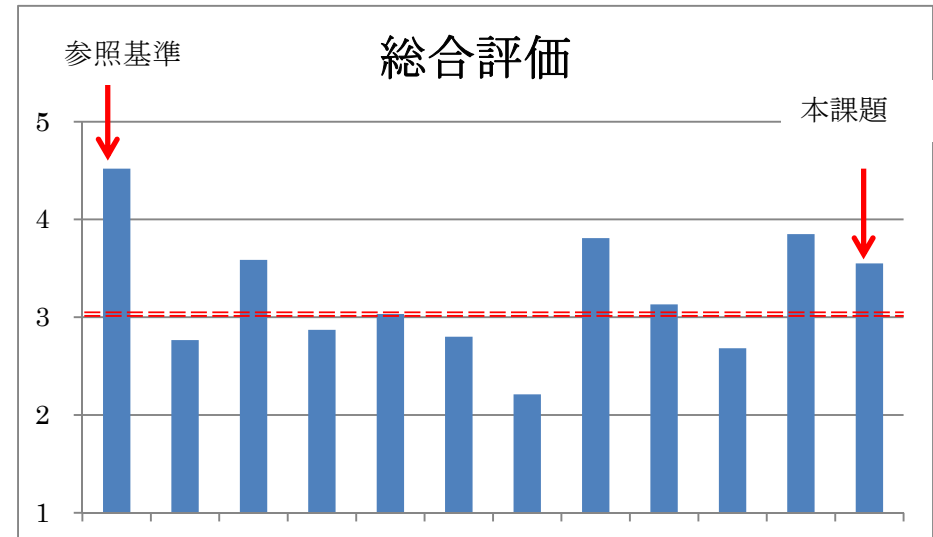
- 1) Figure\_WS2014. 12\_\*\*\*\*. pdf ; 全体の中の位置、項目別評価図
- 2) 大型 WS 評価集計(2).\*\*\*\*.xlsx ; 模擬評価シート一覧

地球惑星科学大型研究フォローアップWS(2014年12月27日)模擬評価資料(1)

25-33名の参加者による模擬評価の平均値。総合評価は1点～5点で評価。レーダーチャートは①～⑤の項目を1～3点で評価。いずれも得点の高いものが良、低いものが不良。

評点に過剰に反応するのではなく、各課題の全体の中での位置や、提案内容の長所短所を冷静かつ客観的に把握するための参考にすることを期待している。

- ①学術価値
- ②コミュニティ合意のレベル(ロードマップでの位置づけ等)
- ③計画主体、妥当性、及び共同利用体制それぞれの充実度
- ④社会的価値;国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値等
- ⑤大型研究計画としての適否;5～10年、数十億円規模以上



大型研究WS2014.12ヒアリング 参加聴衆による模擬評価(2)

海底地震・地殻変動観測網の整備と海陸地震火山観測に基づく地震発生及び火山噴火予測研究の推進

評価者#	評価者分野	良好3、標準2、不良1; グレー塗は、評価者が5段階で採点して いたものを変換。黒塗りは、未記入箇 所。					総合(5 =best Worst=1)	コメント
		学術的 価値	コミュ ニティ 合意	計画 主 体・ 妥当	社会 的 価値	大型 とし ての 適否		
1	宇宙惑星	3	3	2	3	2	4	国の防災としての計画推進が良いのでは(or 現実的では)ないか？
2	宇宙惑星	3	2	3	3	3	4	
3	宇宙惑星	2	2	3	3		4	
4	大気水圏	2	2	2	2	2	3	
5	大気水圏	2	3	3	2	2	4	社会的要請の高い研究ではあるが、網羅的で焦点が定まっていない。今までできなかったことが、これが成功することとどれだけ進展するのかよくわからない
6	大気水圏	3	3	2	3	3	3	予測は難しいと思われるが、そこに踏み込むことが可能か？(予測は基本方程式が確立していて、予測可能性のある現象を対象とするもの)一つ前の火山のメカニズムの解明は、本計画にどうかかわるのか？
7	大気水圏	3	3	2	2	2	3	NIED(防災科研)との関連は？大型研究提案課題としては大規模すぎる。優先順位づけが必要
8	大気水圏	2	3	2	3	2	3	重要性は理解できるが、大型研究として適当な提案か？
9	固体地球	3	3	3	3	3	5	日本列島の地球科学として最重要課題。新しい予測科学の建設を目指している点は評価できる
10	大気水圏	3	3	3	3	1	4	
11	大気水圏	2	3	3	3	2	4	
12	固体地球							
13	固体地球	3	3	3	3	2	3	他の課題とは提案の意図が異なっている。
14	固体地球							
15	固体地球	3	2	2	3	2	3	観測網の整備の重要性は理解できる。ただ、当面の具体的な目標、outputがわかりにくい。
16	固体地球	3	2	3	3	2	3	国策として、何らかの別予算ですすめるべき
17	固体地球	2	2	2	3	2	3	予算は？NIED、JAMSTECの研究との関連は？具体的な研究計画は？
18	地球人間	2	2	2	3	2	3	
19		3	3	2	3	3	4	
20		3	2	3	3	3	3	大きい枠組みづくりのために、連携の強化が必要
21								事業費との切り分け
22								金額的にマスタープランとして一つにまとめるのは、むずかしいのではないのでしょうか？
23	宇宙惑星	2	2	2	3	1	3	行政による施策として推進すべき課題ではないか？技術的に開発要素はないのか？津波監視用海上ブイなど他の観測方法との結合による総合的な変動監視システムを新提案することができないか？
24	宇宙惑星						5	地球惑星科学から提案すべきか、環境から提案すべきかは迷うところである

平均点 2.58 2.53 2.47 2.84 2.17 3.55

大型研究WS2014.12ヒアリング 参加聴衆による模擬評価(2)

分布						
5	--	--	--	--	--	2
4	--	--	--	--	--	7
3	11	10	9	16	5	11
2	8	9	10	3	11	0
1	0	0	0	0	2	0